

2023 年度 学校法人創志学園 事業計画書

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

【高等教育部門】

1. 環太平洋大学

<事業計画概要>

建学の精神に基づく教育目的の達成、研究拠点として学術における対外的発信、地域に根差した活動による地域貢献の役割の達成、産学連携を推進した実学教育と社会貢献に努める。

どこにもない大学の対外的評価をさらに高めるべく、全学共通教育の体制を固める。また、「4 年制大学の 4 年生」への教育内容の充実化を図り、学科別に着任 前研修を強化するとともに、教職員が各人の能力を発揮し、部署間の垣根を越えて、交流を深める体制を構築する。さらに、IPUNZ を拠点とした海外大学との連携・交流や、国内での高大接続事業を積極的に展開する。

<主な事業計画>

1. 学部・学科の主な取り組み

(1) 次世代教育学部 こども発達学科

- ①2024 年度に迫った「東岡山こども園の開設」を成功させる。
- ②こども園の成功に向け、保育施設の経営を学ぶコア科目「保育マネジメント演習」を強化する。
- ③IPUNZ や子ども教育支援財団と連携し、「ニュージーランド保育」を強化する。
- ④公立幼保合格者目標(20 名以上)を達成するとともに、私立園への就職者数を増加させる。
- ⑤岡山県内の保育技術士養成高校との連携を強化し、募集の改善を図る。

(2) 次世代教育学部 教育経営学科

- ①既存の「初等教育コース」「中等教育コース」に加え、「教育社会学コース」を新設し、多様化する進路指導への対応を図る。
- ②大志会や教職支援室との連携を強化し、小学校、中高英語の現役合格者数の拡大を図る。
- ③「青年教師塾」「理科教師塾」「道徳教師塾」「学習サークル」を効果的に運営し、実践力のある教員養成を強化する。
- ④特別支援教育課程を導入し、時代に求められる教育者の育成を図る。
- ⑤教職実践演習で着任前研修を強化し、算数、英語、体育、ICT 等の指導技術を磨く。

(3) 次世代教育学部 教育経営学科 [通信教育課程]

- ①個別相談会の効率的な実施により、入学検討者の満足度を高め、出願者数を増加させる。
- ②外部一般学生の募集を強化するために、WEB 広報や HP の更新に注力する。
- ③WEB 決済システムの拡充やオンラインスクール化を拡充し、社会人学生の利便性を高める。
- ④特別支援教育を軸に、学園グループ内学生の受講者数を増やす。
- ⑤看護教育コースの教育方法を見直し、募集改善を図る。

(4) 体育学部 体育学科

- ①新たに設置される大学院と学部・学科との連携を強化し、時代にあった教育課程を運用する。
- ②トップアスリート育成のための新学科設置の準備を強化し、定員充足を確実に図る。
- ③教職支援室との連携を強化し、保健体育教員の合格者数を増大させる。
- ④サービスマーケティングを実施し、学生による地域貢献活動の強化を図る。
- ⑤広島を中心とするアスリート養成高校との連携を強化し、募集を改善する。

(5) 体育学部 健康科学科

- ①柔道整復師国家試験の対策を強化し、合格率 100%を達成する。
 - ②アスリートや中高年者の支援ができる柔道整復師資格を養成する。
 - ③中退防止のため、メンター、ゼミ担当教員、授業担当者間の連携を図る。
 - ④各地域の接骨院、医療機関、介護福祉施設を訪問し、学生の就職先を開拓する。
 - ⑤募集の質改善のため、体育学科と協働して、アスリート養成高校との連携を強化する。
- (6)経営学部 現代経営学科
- ①学生中心のカリキュラムを整備し、ラーニングラボを拠点とした探求授業の充実化を図る。
 - ②行政公務員(国家・地方行政職)の合格者数を増やすための体制を強化する。
 - ③スポーツビジネスを志向する学生が学外で活躍するための機会を確保・提供する。
 - ④他大学との差別化を図るため、長期インターンシップ制度の拡充を図る。
 - ⑤学生による起業や地域貢献活動、産学連携事業、公開講座を軸に、学科ブランドを確立させる。
 - ⑥探究活動を軸に岡山県内の高校との連携を図り、募集改善を図る。

2. 就職への取組み

- (1)企業就職においては、翔志会活動を早期組織化し、就活ノウハウを早く修得させるとともに、インターンシップの質の向上を目指す。学内合同説明会を積極的に開催し、参加を促すとともに、学科やゼミ、体育会との連携を強化する。
- (2)教員採用試験合格者を増加させるべく、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、キャリアサポート、教員採用試験対策講座の連携を強化し、学部生・卒業生・通信教育学生をサポートする。ゼミ担当教員とも密に連携し、指導内容や指導方法について共通理解を図る。
- (3)公務員採用試験の合格増に向けて、遠隔地受験のためのバスツアーを継続し、受験機会を創出するとともに、公安職希望と行政職希望の学生への相互受験を推奨する。また、上級行政職公務員の合格対策として、予備校 WEB 講座及び、支援室教員による映像授業の補完指導を継続する。
- (4)合格や内定をゴールとせず、「社会で通用する人財」「他大学の同期生よりアドバンテージを持つ人財」の育成に注力する。

3. 学生支援に関する取組み

- (1)学生センター
各種奨学金の採用や事務手続の円滑な運営、学生の課外活動の支援により学生生活支援の充実化を図る。学生指導の諸問題については、全学的な学生指導体制を確立し、IPU 生としてのモラルをもって生活できるように指導する。
- (2)国際教養・教育センター
高大接続事業の強化を軸としつつ、アフターコロナの活動として、IPUNZ を基軸とした海外大学機関との連携や国際交流・留学生サポートの充実を図るとともに、非認知能力開発や情報リテラシー教育の強化を推進する。
- (3)体育会
スポーツ科学センターを活用して各部の成績向上を図り、インターハイ・ベスト8以上の戦績を残す。また、有望なスポーツタレントを獲得するため、情報の収集・分析に加え、HPやSNSを通してタイムリーに情報発信を行い、募集の拡大を図る。
- (4)学友会
学園祭や体育祭の支援やクラブ・サークル活動(体育会以外)への助成の充実を図る。

4. 募集戦略

- (1) 岡山県内高校からの出願数を増加させるため、高大連携事業(出前授業)に積極的に展開する。
- (2) 重点エリアと重点高校を選別し、進学状況を分析し、営業担当者と学科が連携して改善を図る。
- (3) オープンキャンパスからの出願率を上げるため、面談 100%と事後フォローを徹底する。
- (4) 見込み客を増やすため、認知度向上のためのブランディング戦略を充実させる。
- (5) 奨学金制度を含め、募集改善のための入試改革を推進する。

5. 施設・設備の活用

- (1) 校舎「DISCOVERY(ディスカバリー)」を活用し、非認知能力育成のためのプログラムを改善するとともに、学科での専門科目を配置し、学外に教育と研究の成果を発信する。
- (2) スポーツ科学センター「INSPIRE」を活用した研究活動を強化し、研究成果の発信を積極的に行うとともに、競技力向上支援事業、人材育成プログラム、産官学連携事業、地域貢献のためのイベント活動を強化し、発信することによって、大学の評価を高める。

6. 研究に関する取組み

- (1) 研究紀要の年 2 回発行、学内研究発表会の実施に加え、科研費の獲得への支援を積極的に行う。
- (2) スポーツ科学センターを拠点とする研究に加え、産業界や自治体、他大学(連携協定締結)との共同研究等を推進し、研究内容の対外発信を行う。

7. FD・SDに関する取組み

- (1) 3 ポリシーに加え、アセスメント・ポリシーを見直し、機関レベル、課程レベル、授業レベルで教育成果の点検・評価を継続的に行う。
- (2) 内部質保証の仕組みを構築し、持続的かつ自律的に自己点検評価を行う。
- (3) 教育力を強化するため、教養部門と 5 学科のカリキュラム・マネジメントを進化させる。
- (4) 教育研究に関する成果発表の場を設け、部署間を超えた教職員間の対話を促進する。
- (5) 中長期目標達成のための面談を複数回設定し、上司・部下の意思疎通を図る。

8. 評価及び業務の合理化等に関する取組み

- (1) 大学予算の効率的運営を図るため、業務の合理化、教育研究経費・管理経費の見直し、省エネルギー政策の徹底、IT 化の推進を図る。
- (2) 学内外のコンプライアンスの徹底を図るため、公的研究資金の不正使用防止、個人情報保護及び、ハラスメント防止対策等、啓発活動の充実を図る。
- (3) 高等教育無償化の実施に伴う諸事務手続、受付体制や要件に応じた成績管理等について管理体制を整備するとともに、私立大学改革総合支援事業への取り組みを再強化する。

2. 東京経営短期大学

<事業計画概要>

(1) 教育目標

- ① ICT 教育：経営総合学科においては、令和 4 年度文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されたことを契機に、ICT、情報コミュニケーション系科目の内容充実を図り、学生の ICT スキル向上を目指す。

こども教育学科においては、保育現場の ICT 技術による業務支援システム等のスキルを身につける。

- ②専門教育：コース毎の目標に沿った専門知識の習得を目指す。特に、ゼミ活動では専門分野の特色を明確に出す内容とし、他短期大学との差別化を図る。
- ③実務教育：インターンシップは新たな企業を開拓し、就職につなげる。園実習においては継続して実践力向上を目指す。経営総合学科では、資格取得指導の更なる強化を図り、延べ 400 名の資格合格者輩出を目指す。
- ④国際教育：両学科対象のハワイ・ヨーロッパへの海外研修を再開し、異文化理解を含めた語学教育の充実を図る。また、経営総合学科においては継続して TOEIC Bridge を全学生が受験し、教育効果測定を通して TOEIC スコア向上対策を継続する。さらに、こども教育学科においても継続して、保育英語検定受験を必須とし、指導強化を図る。

(2) 経営目標

- ①経営総合学科：学科及び 4 コースの専門性に関する訴求ポイントの見直しを視野に入れて、ゼミ活動の内容を改善する。加えて、継続して各コースの専門性、ICT 教育、国際性を高めるための既存科目の内容を見直し、定員充足を目指す。
- ②こども教育学科：ダブル資格取得を基本としつつ、小学校教員の資格取得も可能とすると同時に、実習・表現教育の充実を図り、ビジネス系短期大学としての強みとを活かした差別化を図る。実習においては、学生の少人数教育やサポート体制を強化しながら、保育士、幼稚園教諭、小学校教員のトリプル資格取得者を増やす。

(3) その他、R4 年度との大きな相違点、R5 年度の特徴等

- ①ハワイ・ヨーロッパへの短期留学プログラムを再開し、国際教育の強化を図る。
- ②学科・コースの専門性に沿った ICT 教育・情報リテラシー教育の充実化(資格取得を含む)を図る。

<主な事業計画>

1. 経営総合学科

- (1) コース毎(「会計税務」「医療事務」「総合ビジネス」「観光ホスピタリティコース supported by Hotel Okura」)の特徴を明確化させる。
- (2) ゼミ活動では、ゼミ担任の個性による専門性を高め、簿記教育、ICT 教育、国際教育をも視野に入れて学習成果を示し、新たな訴求ポイントを構築する。
- (3) 1 年次・2 年次のゼミ活動では各々のユニーク性を持たせ、関係産業界や企業を含めて学生の進路選択で魅力あるゼミ活動を実施する。
- (4) 学科全体の共通事項として、簿記検定、MOS (Word/Excel)、TOEIC の資格取得を目標とし、日頃の授業や塾を通して資格取得指導を強化する。1 年次は、必ず一人 1 つ以上の資格取得を目指すとともに、年間延べ 400 名の資格取得を目指す。
- (5) 前後期にアウトキャンパス期間を定め、各コース・ゼミにおける帰属意識を高める課外活動、ゼミ活動を充実化して学生満足度を可視化し更なる向上を目指す。

2. こども教育学科

- (1) 「いちごひろば・いちごキャラバン (地域子育て支援授業)」「こどもフェスタ (表現教育発表会)」等においては、科目間の連携強化を継続するとともに、協力園との連携により、現役保育士との振り返りを授業内で行う。そこから、責任感や行動力を備えた保育者を目指し、問題発見や問題解決に積極的に取り組む意識と能力」を養成するため、アクティブ・ラーニング方式で学ぶ科目を多く配置する。

- (2) 学内研究所・塾を活用した授業・履修モデルを作成し、学生の興味を活かした学習に重点を置いた指導体制を構築する。ゼミナールにおいては、ゼミ担任の専門性による活動を実践する。
- (3) 国際的な視野を身に付けるため、①ハワイ及びヨーロッパの保育園・幼稚園とオンラインでつなぎ海外の保育事情を知る、②留学生との交流を図り、コミュニケーション力をつける、③保育英検の合格率80%を目指す。以上のことから、本学で学んだ知識を保育現場において、多国籍ルーツを持つ保護者や子どもにも対応できる保育者を目指す。

3. 学生募集

両学科・コースのターゲット層を見直し、差別化を明確にし、イメージ及びマッチングしたポジショニングを構築する。また、ターゲット高校（307校）へは、年5回訪問し、うち3回は全教職員による重点校訪問を実施する。また、早期囲い込みを目的として、6月までのオープンキャンパスへの誘導の徹底と、出願者の早期獲得への戦略的入試制度の再構築を行う。さらに、活躍する卒業生と学生の学修成果をアピールし、主に千葉県内の高校との教育連携強化を目的に、出張授業、探究ゼミ、校内ガイダンスを率先して実施し、認知度の向上を目指す。

4. 進路支援の強化

キャリアセンターが中心となり、インターンシップ・ボランティアを含むキャリア教育の充実化を図る。主に、受入れ企業の新規開拓を行うと共に、学内における対面での企業勉強会、就職フェア、個別企業説明会を再開し、年間通じて開催することで学生の就職先のレベルアップを行う。

【その他の設置校】

3. クラーク記念国際高等学校

個別最適な学びと協働的な学びの実現により、自律的学習者を育成し生徒の学力を向上させるためにクラーク国際独自の学習サイクルの確立と推進を図る。また、習熟度別クラス編成ではない生徒の学力に合わせた授業スタイル（年間授業計画）を導入するとともに、キャリア学習教材（スキルラーニング、キャリア探究Ⅰ、キャリア探究Ⅱ）の全国統一導入、及び週5日及びSMARTⅡ・Ⅲ生の学力コンクール、ベネッセ模試（年2回）の必須化を行う。

4. 専修学校 クラーク高等学院天王寺校

特色重視の特化型教育、企業・地域連携授業による非認知能力の向上と、希望進路の決定と大学進学率の向上を図る。また、リフレクションとコーチングの導入による自律的学習者を育成し、定期的な学力試験（模試・学力コンクール）による生徒の学力伸長の正確に把握する。さらに、コース授業内容の見直しによる専門知識の更なる向上（デジタルクリエイター・eスポーツ）を目指す。

5. 専修学校 クラーク高等学院大阪梅田校

特色重視の特化型教育（独自カリキュラム）で生徒一人ひとりの才能を開花させるとともに、探究学習、個別最適型学習の質の向上を図り、自律的学習者を育成し、学力向上を目指す。また、生徒の多様なニーズに応えられるコース授業の充実と学習環境の構築とともに、生徒会を中心とした生徒主体の学校行事の企画・運営を行う。

6. 専修学校 クラーク高等学院名古屋校

「未来を切り拓く考える力の育成」を掲げ、主体性を軸とした生徒の非認知能力の育成を目指した学校行事や学年、学級経営の実施、プロジェクト学習を中心とした課題解決型の学習に注力する。また、カリキュラムマネジメントの観点から教育内容を精査し、より教育成果が上がるように創意工夫を行う。具体的には、英語、数学に加え国語の習熟度別学習を強化するため、横並びの授業編成へと時間割改革をする。また、生徒個々の学習状況に応じたきめ細かな指導を徹底する。さらに、「確かな学力の育成」をテーマに、大学進学専攻充実化を図る。偏差値 60 以上の難関私大への合格者輩出を目標に、定期的な 1 対 1 のコーチングを成果に繋げる。全国横断の上位層向け進学対策授業の促進に注力する。

7. 専修学校 クラーク高等学院札幌大通校

「可能性はとまらない」のスローガンの下、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育を実践する。そのため、「総合進学」「国際」「スポーツ」「e スポーツ」の 4 コース特化型教育を通して、総合的な人間力と自信を育む。また、個別最適な学びの提供と、協働的な学びの機会創出で、自ら課題を見出し自ら学びに向かうことができる自律的学習者を育成する。さらに、第一志望校に合格できる力と進路先で継続できる力を育む。

8. 創志学園高等学校

岡山大学を含めた国公立大学への合格実績数を伸ばす。(目標数 22 名(岡山大学 7 名)) また、看護師国家試験 100%合格ができる体制づくりを構築する。他校の看護科との差別化を図り、優秀な生徒・学生を育成する。

9. 専門学校 東京国際ビジネスカレッジ

TIBC “ならでは” の追求を通じて、①学生満足度、②保護者満足度、③地域社会満足度、④教職員満足度の 4 つの満足を最高度を実現する。また、採用直結型長期インターンシップを更に業界・業種を拡大して学生の選択肢を増やし、上場・有名企業への就職率を向上させるとともに、専門学校(2 年) + 海外提携大学編入(2~3 年) で海外大学の学士を取得できる仕組みを更に拡大し、進学希望者のニーズに応えると同時に学生募集広報の一助とする。

10. 専門学校 東京国際ビジネスカレッジ 福岡校

専門課程においては、学校訪問や説明会、プレテストの実施による広報活動を通じた学生募集を行うとともに、日本語能力試験 N1・N2 の合格を目指す。高等課程においては、福岡県・市等の行政主催イベントや産学連携企画に積極的に参加し、各専攻で身につけたスキルや資格を活かす場を創出する。また、各専攻の学習成果として併修先であるクラーク国際との連携を利用した高等学校の大会やコンクール出場により上位成果を生み出す。さらに、自律的学習者の育成に向けた教職員の指導法スキルの構築や、英語技能検定取得を目指したカリキュラムの構築と取得体制を実現する。

11. 日本健康医療専門学校

鍼灸・柔道整復学科においては、国家試験のストレート合格 100%を目指せる教育体系の構築と、学科オリジナルゼミの充実を図る。前年度に導入したオリジナルゼミ・韓流系マッサージプログラムのように、更なるゼミのラインナップ拡充を目指す。また、ライフケア学科においては、トレーナー資格の JATI-ATI 全員合格を目指し、特徴あるパーソナルトレーナーを輩出する。

12. 成女高等学校

4 年生大学進学率 80%を目指し、進路に合わせた適切な科目履修の指導・一般受験に対応できる学習指導体制を構築する。また、キャリア教育の一環としての自主研究ゼミの高大連携を推進する。

13. 成女学園中学校

6 年一貫教育で MARCH レベルの進学実績を目標とする。また、キャリア教育の一環として自主研究ゼミの導入し、早い段階から目標の大学・学部・学科を決めるとともに、英語教育の推進（コミュニケーションを重視した使える英語を目指す）3 年次準 2 級以上習得を目指す。

以上